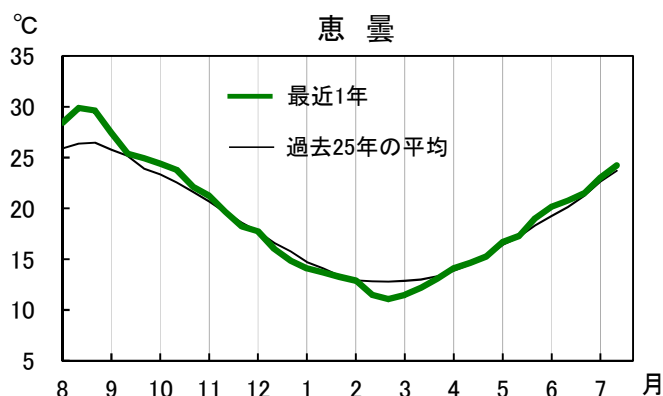
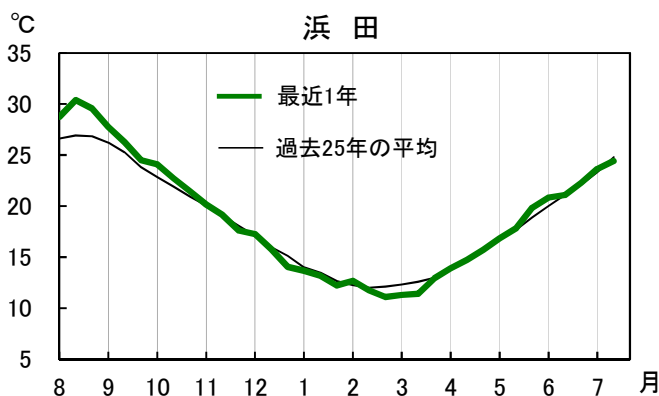




《6～7月の海況》

6月	月平均	平年差	評価
浜田	21.4℃	+0.3℃	平年並み
恵曇	20.8℃	+0.5℃	やや高め

沿岸定地水温は、浜田地区では6月は月上旬は「やや高め」でしたが、中旬以降は「平年並み」となり、7月に入り中旬までは「平年並み」で経過しています。一方、恵曇地区では6月上・中旬は「やや高め」でしたが、6月下旬に「平年並み」となり、7月に入り中旬までは「平年並み」で経過しています。



《6月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年並みとなりました。この時期主体となるマアジは平年の1.3倍でしたが、同じく主体となるスルメイカは平年の4割となりました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ、ブリ、カタクチイワシ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量はそれぞれ平年を下回りました。例年漁獲されないブリは好調でしたが、イワシ類、マアジは概ね不漁であり、特に昨年主体であったマイワシは殆ど漁獲されませんでした。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）では前月までのスルメイカ主体からケンサキイカ主体（全体の89%）の漁況に変わり、1隻1航海当りの漁獲量は66kgで平年並みでした。その他、スルメイカ（全体の11%）、コウイカ類（全体の1%未満）も水揚げされました。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではスルメイカのみ（全体の100%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は106kgで平年を上回りました。

【ばいかご漁業】

6月から始まった石見地区のばいかご漁業における総漁獲量は42トン、1隻1航海当りの漁獲量は959kgで前年、平年を上回りました。また主漁獲対象であるエッチュウバイの総漁獲量は37.8トン、1隻1航海当りの漁獲量は860kgで前年の1.2倍、平年の1.6倍の水揚げとなり、好調に推移しました。銘柄「大」、「中」を主体に漁獲されています。

【しいら漬け漁業】

6月から始まった石見地区のしいら漬け漁業はシイラ主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は1.1トンと平年の約1.3倍となりました。主体となるシイラの漁獲量は平年の1.1倍となり、例年シイラとともに漁獲されるヒラマサは平年の2割の水揚げとなりました。

【定置網漁業】

石見地区ではマアジ、ケンサキイカ、ブリ類主体の漁況で、1統当りではこの時期主体となるケンサキイカ、ブリが平年並みだったものの、マアジが平年の6割だったため、結果として全統の総漁獲量は平年を下回りました。出雲地区ではマアジ、ホソトビウオ、ブリ主体の漁況で、1統当りではマアジ、ホソトビウオ、ブリを含む多くの魚種が平年を下回り、全統の総漁獲量は平年を下回りました。隠岐地区ではホソトビウオ、マアジ、ブリ主体の漁況で、1統当りではホソトビウオが平年の2倍であったものの、マアジ、ブリを含む多くの魚種が平年を下回ったため、全統の総漁獲量は平年を下回りました。

【釣・縄】

出雲地区ではブリ、ケンサキイカ、イサキ、マアジが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は17kgで平年を下回りました。石見地区でケンサキイカ、アマダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は14kgで平年を下回りました。隠岐地区ではカサゴ・メバル類、キダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は18kgで平年並みでした。

【平成 26 年 6 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ	514トン	131%	119%	11.9トン	89%	98%	○
	西郷	マアジ、ブリ	2,154トン	55%	70%	21.5トン	53%	69%	▲
	浦郷	マアジ、カタクチイワシ	869トン	29%	52%	8.7トン	28%	51%	▲
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ	6トン	29%	54%	66kg	57%	83%	○
	西郷	スルメイカ	4トン	—	41%	106kg	295%	137%	◎
ばいかご	大田管内	エッチュウバイ	42トン	117%	126%	959kg	124%	143%	◎
しいら漬け	和江	シイラ	12トン	46%	78%	1.1トン	62%	118%	○
定置網 (大型)	浜田	マアジ、ケンサキイカ	16トン	25%	46%	650kg	20%	55%	▲
	美保関	ホソビウオ、ブリ、マアジ	50トン	40%	38%	501kg	40%	39%	▲
	浦郷	ホソビウオ、ブリ	33トン	81%	81%	1.1トン	78%	77%	▲
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、マアジ	8トン	56%	68%	17kg	74%	67%	▲
	大社	ブリ、ケンサキイカ	10トン	69%	77%	19kg	79%	81%	▲
	西郷	カサゴ・メバル類、キダイ	7トン	99%	53%	27kg	114%	96%	○

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした。

【ケンサキイカ情報】

発行日：平成26年7月23日

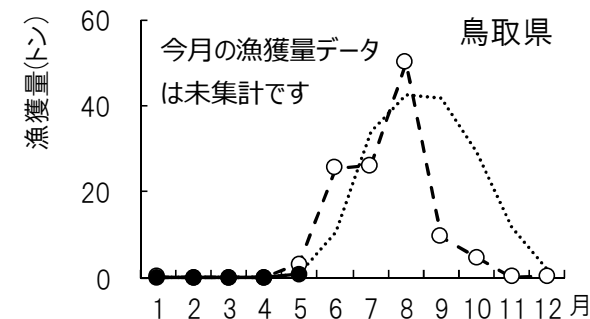
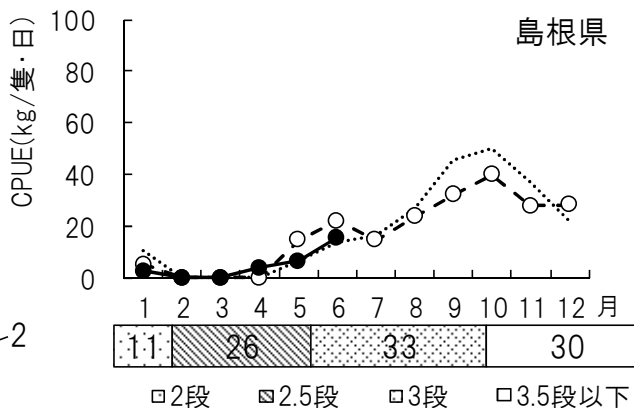
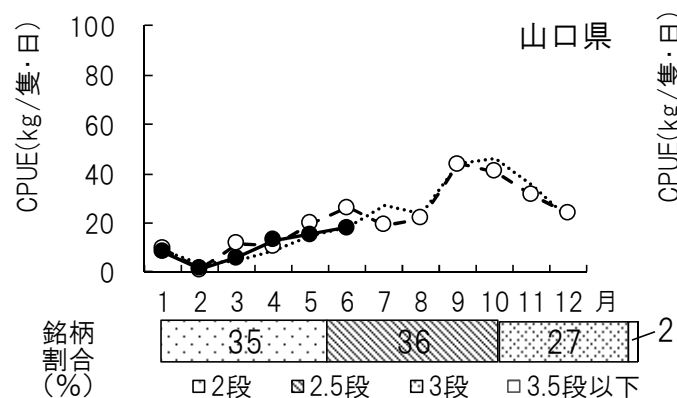
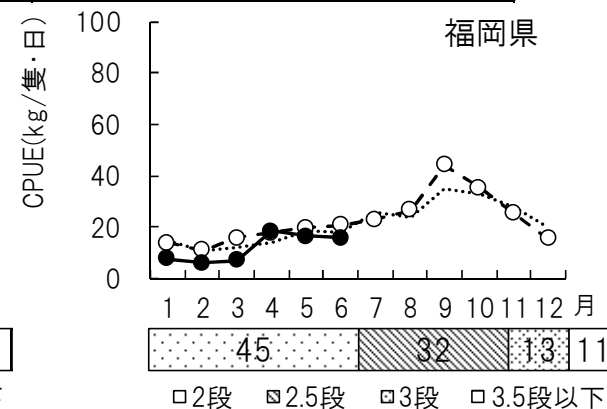
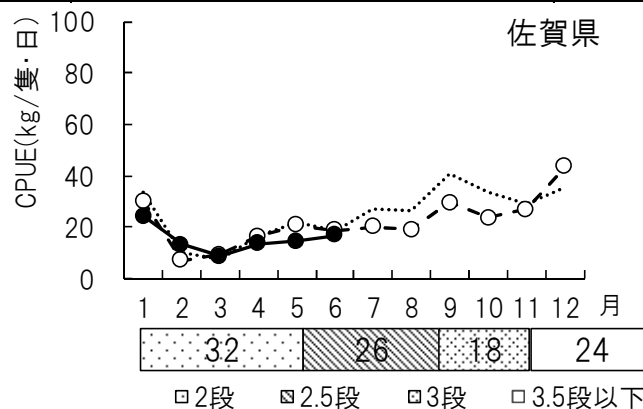
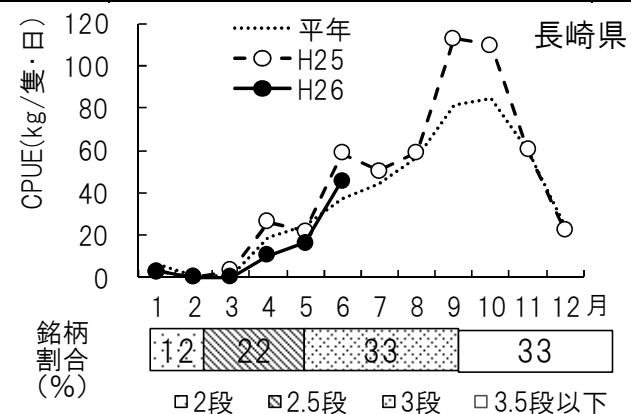
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I：6月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

4月、5月に続き全般的に低調な漁況であったようです。各県の状況は以下のとおりです。

長崎県	漁獲量は前年を下回り(前年比64%)、 平年並み(平年比101%)でした。	佐賀県	標本港の水揚量は前年並み(前年比 92%)で、平年を下回りました(平年比 75%)。	福岡県	代表港の6月の漁獲量は前年比 62% 、 平年比 67% でした。また1～6月の累積漁獲量は 前年比 59% 、平年比 68% と5月に引き続き低 調に推移しています。
山口県	代表2港の漁獲量は前年・平年を大きく下 回りました(前年比31%、平年比58%)。	島根県	主要7港の水揚量は 22トン で、 前年を 下回り 、平年並みでした(前年比 40% 、 平年比 94%)。	鳥取県	6月の漁獲量は集計中ですが、5月までの 漁獲量は好漁だった前年を大きく下回り、 平年並～平年をやや下回る値となってい ます。



※平年は過去5年(H21～H25)の平均値

II:7月上旬の底層水温

長崎県	五島西沖の底層水温は15-18℃台で前年並みでした。	佐賀県	壱岐水道は20.5～21.2℃で前年並み、対馬東水道は15.8～19.1℃でやや高めでした。	福岡県	沿岸域の底層水温は20～21℃台で前年並み、沖合域の底層水温は16～18℃台でやや高めからかなり高めとなっています。
山口県	底層水温は冷水域を除き、11～20℃台で前年並みからやや高めでした。	島根県	今月は水温情報がありません。	鳥取県	島根県東部から鳥取県西部の水深100mの海域の底層水温は16℃前後でした。

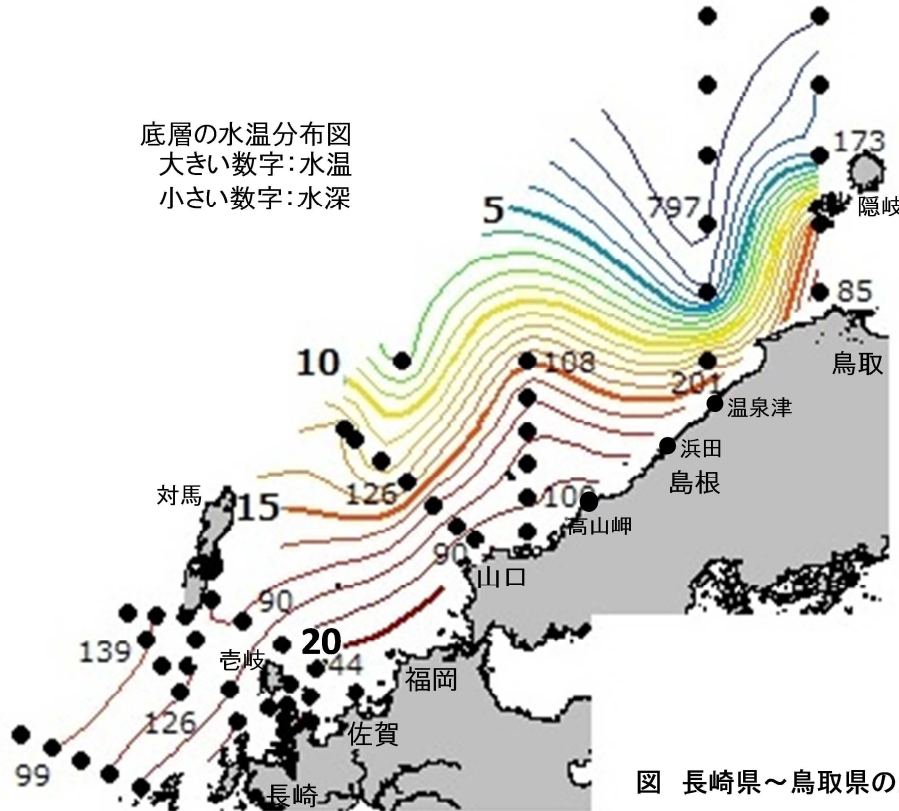


図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図